「私たちを雇って下さい！」

と書いたノボリを立てて、就職希望の生徒達が銀輪部隊を編成し商店街を連呼して廻ったことをまだご記憶の方もいられることでしょう。それは昭和34、５年頃の〝就職難時代〟の思い出話でした。

その後、景気がよくなり、産業の発展が進み、昭和38、９年には、県外の中卒求人だけで、５万人を数えるようになりました。

就職希望者１万人の約５倍の求人が県外の事業所から舞い込み、毎年就職希望者の７～８割までが県外に流出して、絶好の供給地となっていました。

一方県内求人も１昨年あたりから、経済の高度成長の影響と、新産都市指定をけい機に、県外企業の誘致が実現したこと等により、県内の雇用需要が増大し、人手不足が叫ばれるようになり、すでに41年度の求人に対してもかなりの未充足を出しています。さらに来年は、県内の中卒だけの求人でも、7,000名が予想されており、就職希望者、6,600名が全部残っても、なお不足の状態が見込まれています。

そこで県では「郷土にのこって、郷土をおこそう運動」を展開して労働力の確保をはかることになりました。

国も、このような地方の労働力不足をなくするための対策として、

○ 工場の移転にともない地方へ移る労働者には住宅確保資金など移転資金を融資する。

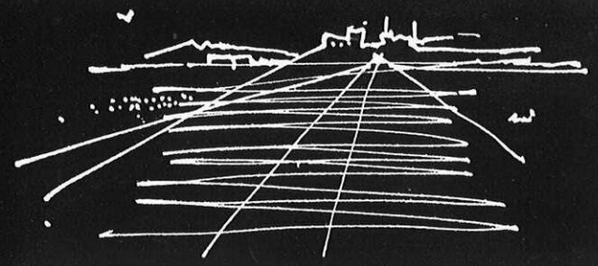
○ 地方では、労働者を定着させるため、レクリェーション施設などを設けて働く環境の整備をする。

など地域的に均衡のとれた、労働力の配置を考えています。

行政機関も事業所も一緒になって、魅力ある郷土の職場づくりをすることが、若い力を郷土にのこすことになるのではないでしょうか。

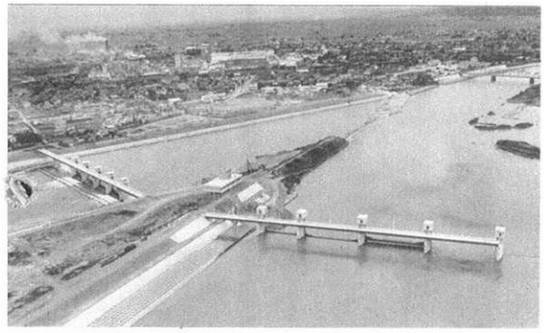
熊　本　県

県政ハイライト



7．1－交通事故の激増に対処して、県では被害者救済対策の一環として交通事故相談所を開設した。

7．3－人手不足になやむ農村の適期田植えに協力して県職員と農協職員による一日田植えが行なわれた。



7．3－球磨川改修事業のうち球磨川堰、新前川堰がこのたび12億円を投入して完成した。

7．17－旧県庁舎跡地熊本交通センター建設用地の売り渡し契約の調印が県と交通センターとの間で行なわれた。

6．14－蚕糸業振興のため県下蚕糸功労者に対する高松宮殿下（大日本蚕糸会総裁）表彰の伝達が行なわれた。

6．14－連日の日照りで、田植えができなくなった阿蘇地方の実情を寺本知事一行がつぶさに視察。

6．15－県庁に永年勤続し、このたび退職した人たちに対してその労をねぎらい県から感謝状がおくられた。

6．17－ 480ヘクタールの耕地を造成する玉名郡横島干拓の潮止め工事完工式が行なわれた。